

成人期にある人の生活調整を支える看護学実習 評価表

( ) G 学生氏名 ( )

1. 目的：疾患により生活調整が必要になった対象者に看護を実施し、看護師の退院支援の特徴と、地域および社会への復帰に向けた看護を学ぶ。
2. 目標：疾患により日常生活に支障をきたした対象に、必要な身体的・精神的ケア、退院支援を実施し、再び健康的で自分らしい生活を実現し社会復帰するために必要な看護ができる。

学習活動	学習活動における具体的評価規準	評価資料	評価基準				ポイント	自己評価		評価
			A14点(1)(7)15点	B11点(1)(7)13点	C8点(1)(7)10点	D6点(1)(7)7点		中間	最終	
1. 成人期にある人の生活調整を支える看護学実習の要項を参考にして、患者の状況をふまえて必要な学習をする	(1) 疾患をふまえ、退院に向けた看護実践をするための日々の学習をして臨んでいる	ビジョンゴールシート ポートフォリオ 発言・行動	疾患をふまえ、退院に向けた看護実践をするために必要な日々の学習準備をして臨み、知識を効果的に活用し追求できている 15点	疾患をふまえ、退院に向けた看護実践をするために必要な日々の学習準備をして臨んでおり、学習内容を大体は活用できている 13点	疾患をふまえ、退院に向けた看護実践をするために必要な日々の学習の準備をして臨んでおり、一部活用できている 10点	疾患をふまえ、退院に向けた看護実践をするために必要な日々の学習の準備をして臨んでいない。または、学習していても活用できない7点	疾患の症状と病態・治療・看護 フィジカルアセスメント技術  その他対象に必要な学習			
2. オリエンテーションや、退院支援の場、それに関連した多職種連携の場などの臨床の退院支援に参加する	(2) 臨床の退院支援の実際の見学を通して、看護師が行う退院支援および他職種連携の意義や必要性を学んでいる	インパクトシート 振り返り用紙 発言・行動 カンファレンス	退院支援の具体的な内容について地域とのつながりを含め十分な理解ができており、看護師が行う退院支援や多職種連携の意義や必要性について、患者の生活やニーズの観点から学んでいる 14点	退院支援の具体的な内容について大体理解ができており、看護師が行う退院支援や多職種連携の意義や必要性について、一般的な学びはある 11点	退院支援の具体的な内容について大体理解ができているが、看護師が行う退院支援や多職種連携の意義や必要性について学んでいない 8点	退院支援の具体的な内容について理解ができておらず、退院支援や多職種連携の意義や必要性について学んでいない 5点	地域包括ケアシステム 医療保険・介護保険・身体障害者のサービス内容 多職種連携 地域連携室・退院支援ナースの役割			
3. 疾患により生活調整が必要になった対象の抱えている課題と退院後のその人らしい望ましい生活について明確にする	(3) 疾患により生活調整が必要になった生活者が抱える課題が理解できる	基本情報 分析シート 援助方針リスト 発言・行動	必要な情報を知っており、アセスメントして身体面・精神面・社会面・生活行動面から多面的に生活者としての課題が理解できている 14点	必要な情報を知っており、アセスメントして不足はあるが生活者としての課題が理解できている 11点	必要な情報を部分的に知っているが、事実として観察できる範囲での生活上の課題は理解できる 8点	情報や理解が不十分であり、生活者としての課題を理解することができていない。また、身体面の課題が理解できない 5点	疾患の症状と病態・治療・看護 生活動作(ADL・IADL)の知識: FIMパーセルインデックス等MMT・ROM心不全重症度分類 障害疾病受容に関する理論			
	(4) 退院後のその人らしい望ましい生活について理解できる	退院後のイメージ図 援助方針リスト 発言・行動	退院後のその人らしい望ましい生活の方向性が患者の希望、疾患、生活、持てる力などの多方面から具体的に考えられている 14点	退院後のその人らしい望ましい生活の方向性が患者の希望、疾患、生活、持てる力などから具体性に欠けるが考えられている 11点	退院後のその人らしい望ましい生活の方向性が患者の希望と疾患からのみ考えられ一般的である 8点	退院後のその人らしい望ましい生活の方向性が患者の希望のみからしか考えられていない 5点	疾患の症状と病態・治療・看護 生活動作(ADL・IADL)の知識			

成人期にある人の生活調整を支える看護学実習 評価表

( ) G 学生氏名 ( )

1. 目的：疾患により生活調整が必要になった対象者に看護を実施し、看護師の退院支援の特徴と、地域および社会への復帰に向けた看護を学ぶ。
2. 目標：疾患により日常生活に支障をきたした対象に、必要な身体的・精神的ケア、退院支援を実施し、再び健康的で自分らしい生活を実現し社会復帰するために必要な看護ができる。

学習活動	学習活動における具体的評価基準	評価資料	A14点(1)(7)15点	B11点(1)(7)13点	C8点(1)(7)10点	D5点(1)(7)7点	ポイント	自己評価		評価
								中間	最終	
4. 対象と家族が再び健康的で自分らしい生活が送れるための看護を実践する	(5) 患者の生活行動の自立に向け、安全に持てる力を最大限に引き出す援助ができる	インパクトシート 発言・行動援助計画 振り返り用紙	安全に対象の持てる力を最大限に引き出し、生活行動の自立に向け日々の変化に対応した効果的な援助を実施している 14点	安全に対象の持てる力を大体活用して、生活行動の自立に向けて援助している。しかし日々の変化への対応は不十分である 11点	安全に対象の持てる力を部分的に活用し、生活行動の自立に向けた援助としているが、不十分である 8点	安全に対象の持てる力をあまり活用しておらず、生活行動の自立に向けた援助として行えていない 5点	リハビリテーションの基礎知識MMT・ROMなど日常生活動作(ADL・IADL)の評価:FIMバーゼルインデックス等対象の持てる力の理解			
	(6) 良好な関係を築き、患者の健康的な生活に向けた学習支援が実施できる	ポートフォリオ	良好な関係の下、患者や家族などの状況・疾患・発達課題に合わせた伝わりやすい説明で、個別性や具体性のあるセルフケアで健康管理が行えるような援助が実施できている 14点	良好な関係の下、患者や家族などの状況・疾患・発達課題を意識し、セルフケアで健康管理が行えるような援助が実施できているが、個別性や具体性が不十分である 11点	良好な関係の下、患者や家族などに、疾患や生活に対する必要な学習支援を考えながら実施できる。しかし、一般的な内容である 8点	良好な関係が築けない。または患者や家族などに必要な学習支援が考えられない・内容を指示しないと学習支援を実施することができない 5点	疾患受容や障害受容、行動変容の理論学習支援の技術家族との関わり家族への指導コミュニケーション・人間関係の構築			
	(7) その人らしい健康的で望ましい生活に向けて、退院支援として看護師が行うべき必要な援助はなにか学んでいる	凝縮ポートフォリオ 発言	実習での経験・退院支援に関わる法律やシステム等の知識から具体的に考察・探究した上で、根拠を示して、その人らしい健康的で望ましい生活に向けて必要な援助は何かを自分の言葉で表現できる 15点	実習での経験からのみ、具体的に考察・探究した上で、その人らしい健康的で望ましい生活に向けて必要な援助は何かを自分の言葉で表現できる 13点	実習での経験から具体的に考察しているが、その人らしい健康的で望ましい生活に向けて必要な援助は何か一般的なまとめとなっている 10点	実習での経験から具体的に表現しているが、その人らしい健康的で望ましい生活に向けて必要な援助は何かは考えられていない 7点	看護のプロセス人間関係の構築疾患受容や障害受容、行動変容の理論対象の持てる力の理解疾患治療看護の知識地域包括ケアシステム多職種連携地域連携室・退院支援ナースの役割			

実習指導者	担当教員	優 良 可 不可 点/100点
-------	------	--------------------

成人期にある人の生活調整を支える看護学実習 評価表

( ) G 学生氏名 ( )

1. 目的：疾患により生活調整が必要になった対象者に看護を実施し、看護師の退院支援の特徴と、地域および社会への復帰に向けた看護を学ぶ。
2. 目標：疾患により日常生活に支障をきたした対象に、必要な身体的・精神的ケア、退院支援を実施し、再び健康的で自分らしい生活を実現し社会復帰するために必要な看護ができる。